

レイシズムとはなにか

人種差別ということばがある。これは、レイシズムの訳語である。「〇〇は人種差別だ」というとき、人種差別というよりも民族差別なのではないかと思われることもある。はたして、人種や民族とはどのような意味なのだろうか。ここで「人種」や「民族」という概念について文化人類学の立場から解説した本をみてみよう。スチュアート・ヘンリはつぎのようにのべている。

…民族にしても人種にしても、その時々状況に即して創られ、再生産される、操作可能な社会観念である、ということです。本質的なものではなくて、一つの現象といってもいい。しかしながら同時に、その時代の政治、経済、文化などに影響を及ぼす、厳然とした現実——社会的な実在——でもあるということです。いいかえれば、民族も人種もフィクションであるにすぎないのに、逃れようのない現実であるということです。集団殺害（ジェノサイド）や民族浄化などといった恐ろしい出来事が幻想のうえに成り立っているとしたら、救われません（スチュアート2002:18）。

人種も民族も、ある視点によって「見いだされたもの」であり、本質的な実体があるわけではない。そのため、まなざしが増えれば、人種像や民族像も変化することになる。ここで問われるのは、人種や民族という概念をどのように使用するのか、あるいは、使用しないのかということである。ただたんに、民族は幻想なんだとってしまえば、その社会の多数派にとって都合のよい社会を維持することになる。なぜなら、意図してなにをしないで、多数派の文化は「あたりまえ」のように社会で実践され、再生産されているからである。

いま現在、人種という概念がもっとも使用されているのは、人種差別について論じる文脈だといえるだろう。人種差別とは、一体どのようなことをさすのか。レイシズム（人種差別）といったときに、そこで問題にされるのは、どのようなことなのか。竹沢泰子（たけざわ・やすこ）はつぎのように指摘している。

日本で人種や人種差別について語ることは、常にある一定の困難さを伴う。人種と言えば、コーカソイド人種（白色人種）、モンゴロイド人種（黄色人種）といった、古典的で誤りに満ちた理解が教科書や事典などをとおして広く浸透しているがために、人種差別という言葉で一般に想起されるのは、アメリカ合衆国の黒人差別か南アフリカ共和国のアパルトヘイトか、さもなければ日本人が海外で受ける人種差別といった類のものに限られがちである。民族は人種の下位概念、文化的概念であり、人種は生物学的概念であるという理解によって、日本社会における在日コリアンや華僑・華人などに対する差別は「民族差別」、被差別部落に対する差別は「部落差別」というそれぞれ個別の差別形態として認識されることになり、問題を矮小化してきた。それによって、これらの差別に通底する人種主義の側面については、むしろ覆い隠されてきたと言っても過言ではない。また学術界においては、国内におけるこのような問題を海外における人種主義の事例と紡ぎあわせて、それらの共通性や特異性を検証するといった営みは、きわめて立ち後れていると言わなければならない（たけざわ2009:1）。

竹沢は、「英語の“racism”には、日本語の人種主義と人種差別の両方の意味が含まれている」と説明している（たけざわ2005:18）。竹沢はレイシズム（人種主義・人種差別）を、「人々の認識において「人種」が異なるがゆえにおこされる差別行為や人種間に優劣をつけるイデオロギー」と定義している（18-19ページ）。つまり、レイシズムとは、「人間を人種という概念で区別・分類することができる」という発想と、「人種には優劣がある」という発想という、ふたつのイデオロギーのことである。

人間を分類し、自分たちを上位に位置づけ、他者をおとしめ、排除するということは、人間の社会のなかで何度もくりかえされてきたことである。そうした分類と差別という問題は、社会を構成する人間にとって、おかしてしまいやすい過ちであるからこそ、レイシズムについて意識し、議論する必要がある。

日本においては、部落差別についてとりあげることも、レイシズムの問題にむきあううえで必要なことである。部落差別は、まさに一方的な価値観や力によって人間を区別し差別するものだからである。

肉食・皮革と差別

現在では部落差別はほとんど解決したと主張する人たちがいる。一方で、そもそも部落差別がどのような差別であるのか、まったく理解していない人もたくさんいる。ここでは肉食と部落差別という視点から、歴史をふりかえっておきたい。黒川みどり（くろかわ・みどり）は『近代部落史』でつぎのように説明している。

明治後期になって肉食はしだいに普及していったが、それに対する民衆の根強い偏見は完全に払拭されたわけではなく、また肉食を採り入れたからといって、屠場労働や精肉作業に対する偏見の解消には直結せず、そうしたことが屠場の仕事に関わる被差別部落民衆に対する差別・偏見につながっていった。さらには屠場のイメージが肥大化し、屠場の仕事には関わりをもたない被差別部落の人びとまでをも一緒くたにして、屠殺に纏（まつ）わる忌避感が被差別部落全体を覆っていった（くろかわ2011:77）。

これはジョージ・バーナード・ショアの『人と超人』にある一節とよくにている。

ごうまんなアメリカ国民は…中略…、黒人にブーツをみがかせ、黒人の精神的・肉体的劣等性を証明する。彼がクツみがきであるという事実によって（... the haughty American nation ... makes the negro clean its boots and then proves the moral and physical inferiority of the negro by the fact that he is a shoeblack）。

http://ebooks.adelaide.edu.au/s/shaw/george_bernard/man_and_superman/complete.html

自分ではしたくないが、自分たちが必要としている作業をだれかにさせることで、自分たちの「純粹さ」を確保し、同時にその作業と従事者をおとしめる。そして、就職差別をすることで、自分たちの「同僚」にはしないという排除をおこなってきた。また結婚差別によって、自分たちの「家族」にはさせないという他者化をおこなってきた。ご都合主義によって「われわれとは、ちがう」という意識を再生産してきたといえるだろう。

これは肉食だけでなく、革製品についてもおなじことがいえる。革の利用は近代以前からずっとつづいてきた。ながい歴史がある。たとえば、たいこの皮は動物の皮である。三味線の皮はネコやイヌの皮を使用している。たいこや三味線などの楽器は、音楽文化というだけでなく、皮革文化の産物である。

「皮をなめす」のもコツがある。ひとつの技術である。しかし、そういった熟練のわざに注目することはほとんどない。ただ、製品化された商品としてだけ皮革に接している。作業工程をしらないのは、どのような商品でもおなじことかもしれない。しかし、ほとんどの場合、その作業工程がタブー視されることはない。しかし食肉と皮革に関しては、テレビで放送されることはほとんどないといっている。部落差別をうけてきた人たちが主に従事してきた歴史があり、また、いまでも職業差別がのこっているからである。たとえば、前回紹介した品川の「東京都中央卸売市場食肉市場」にも、大量の「差別はがき」がおくられたことがある。その差別はがきは、「お肉の情報館」に展示されている。

メディアと差別表現

これまで、差別表現（差別語）をめぐる、さまざまな議論がされてきた。差別語を規制しようとする主張に対して、「ことば狩り」と名前をつけ、反対する場合もあった。差別表現として問題にされてきたのは、部落差別に関するものをはじめとして、性差別、障害者差別、アイヌ民族などの少数民族、在日朝鮮人をはじめとする「外国人」、性的マイノリティに関するものである。こうした差別の問題、また、マスメディアの表現の問題もまた、多文化主義の課題であるといえる。たとえば『アメリカの差別問題—PC（政治的正義）論争をふまえて』をみると、アメリカで展開されてきた「適切な言語表現」のありかたについての論争を確認することができる。日本でも、現在「ヘイトスピーチ（マイノリティに対する差別／憎悪表現）」が社会問題になっている。

ここで、1997年に出版された『多文化社会と表現の自由—すすむガイドライン作り』という本に注目してみたい。副題にあるように、表現の「ガイドライン」が国内外で作成されていた時代である。編者の湯浅は「まえがき」で、ガイドラインのあるべき位置づけについて、つぎのように説明している。

差別是正のためのガイドラインの策定は、表現の自由を立法によって規制するのではなく、社会的少数者の自由と権利を保障するために、表現の自由をいかに拡大するかという観点が含まれている。つまり、民主的なプロ

セスを重視しながら、市民的な調整原理を具体化していく、もっとも今日的なテーマのひとつなのである（ゆあさ編2007:4）。

つまり、湯浅は法律による規制というトップダウン式のガイドラインではなく、民主的に調整するようなボトムアップ式のガイドラインが必要であるという立場をとっている。

湯浅は、「多文化主義の視点から」「メディアの役割とガイドライン作成の意義」について、つぎのように論じている。

「かつては自由に書けたのに今は差別問題がうるさい」といったとらえ方ではなく、これまでエスニック・マイノリティや社会的少数者の立場を考えずに表現し、均質な読者像を想定していたことが問われているのである。また、表現の機会を決してすべての人々に開かれているわけではなく、とりわけ社会的少数者の表現へのアクセスが十分でないことが問題となっているのである。つまり、表現の自由のそのものの価値である多様性を保障する共同の場を作り出していくためにもメディアのもつダイナミズムが今ほど必要とされている時代はないと言えるだろう。

表現のガイドラインをメディアが作成することは、そのようなメディアのダイナミズムを促進する契機と位置づけなければならないだろう。禁句集や言い換え集といった危機管理的な意味でのマニュアルではなく、世界史的な視点からメディアの表現に新しい息吹を呼び込むものにしなければ意味がない（ゆあさ1997:268-269）。

湯浅が「禁句集や言い換え集といった危機管理的な意味でのマニュアル」と表現しているように、「こういう表現をつかわなければ問題にならない」というような視点にたつ「対策」がとられてきたのも事実である。一方で、差別がどのような問題であり、どのようにむきあっていくのかという根本的な問いをなげかける議論も展開されてきた（ましこ2014、さとう2018）。

たとえば、「あれ」ということばがある。「あれ」は差別語とは認知されていない。しかし、「あれ」ということばに差別的なニュアンスをこめることはできる。差別表現は単に語彙（単語）の問題ではなく、その文脈によっても規定されるものである（たなか1993）。「あれ」ということばでさえ差別表現として利用できるのは、この社会に、すでに定着した差別の実態があるからである（差別語を使用しなくても、現実にある差別を参照する（ほのめかす）だけで差別的な文脈をつくることのできる）。だからこそ、マニュアルは「表面的な対策」にしかならないのだといえる。

現在、マイノリティに対する差別や攻撃的な言動について、法律で規制し、刑罰の対象にすることを主張する議論もある。それに対して、慎重論もだされている。師岡康子（もろおか・やすこ）が『ヘイト・スピーチとは何か』で紹介しているように、「法規制を選んだ社会」（第3章）の事例をふまえて、「法規制慎重論」（第4章）の内容を確認したうえで、差別やマイノリティ迫害の問題に対して、社会として、今後どのようにとりにくんでいくのかを議論していく必要がある。

差別扇動としてのヘイトスピーチ

ヘイトスピーチとは、直訳すれば憎悪表現という意味である。しかし、ヘイトスピーチの問題は特定の集団に対する憎しみ（憎悪／嫌悪）をあおることにある。マイノリティに対する憎悪を呼びかけ、攻撃の対象にしようとする行為である。そのため「差別扇動」や「憎悪扇動」と表現する場合もある。

近年の日本社会では、街頭で特定の集団に対する攻撃を呼びかける集会がたびたび開かれている。差別の扇動を目的としたデモも何度も開かれてきた。デモのコースを在日朝鮮人の集住地区を通過するように設定し、恐怖感をうえつけるようにしたデモも各地で開かれてきた。カウンターとして、ヘイトスピーチに反対し批判する地道な活動もある。その結果、いわゆるヘイトスピーチ解消法が制定された。

毎週のようにどこかの街頭で、敵対心をあおる発言や憎悪を呼びかける発言が拡声器をつかって発信されている。それと同時に、ウェブ上でも、攻撃的な発言があふれている。たとえば、おかしいことをおかしいと発言する外国人女性に対して、中傷と人格攻撃が集まることがある。だれが中傷されるかは、その属性によって変動する傾向がある。

インターネットが普及する以前は、ヘイトスピーチは手紙や電話、あるいは落書きによって発信されてきた。マスメディアが差別表現をする場合もある。政治家によるヘイトスピーチがメディアで流されることもある。ヘイトスピーチの問題は、古くて新しい問題である。関西圏では「差別落書きをなくそう」という看板が自治体によって設置されてきた。それは多くの場合、部落差別に関する差別落書きのことをさしている。

現代社会には、メディアの多様化によって差別や憎悪を発信する手段が増えたという側面と、ウェブ上のやりとりによって攻撃的な行動が可視化され、さらに接点を増やし、ネットワーク化されていくという側面がある。たとえ事実無根のデマであっても、すぐさま拡散され、いわれのない中傷と攻撃がはじまってしまうこともある。そのような社会において、差別は、もはや娯楽のようなものになってしまっている。ひじょうに危険な状態だといえる。

アウトティングはなぜ問題かープライバシーの侵害による差別扇動

事実無根のデマの流通も問題であるが、同時に、アウトティングによる差別の扇動という問題もある。アウトティングとは、おもに性的少数者に関連して使用される用語である。

田亀源五郎（たがめ・げんごろう）による『弟の夫』というマンガの3巻では、アウトティングという用語についてつぎのように説明している。

同性愛者であることを公表することをカミングアウトといますが、本人が公表していないのに他人が勝手にばらすことをアウトティングといます。…中略…

アウトティングは人を傷つけ、時として大きな悲劇を呼びます。2010年、アメリカで18歳の大学生がルームメイトにアウトティングされて、橋から飛び降り自殺した事件は、大きな社会問題になりました。日本でも2015年に、やはり大学生がアウトティングによって亡くなっています（たがめ2016:「マイクのゲイカルチャー講座8【アウトティング】」）。

アウトティングが問題であるのは、すでにこの社会において性的少数者が攻撃の対象になっている現実があるからであり、事実であるうと、なかるうと、他者が勝手にそのことを他言することは、生存にかかわる攻撃になるのである。

差別が「あたりまえ」の風景になっている社会では、自由に行動することが困難になってしまう。たとえば書店や図書館で、性的少数者に関する本を手にもすることにも勇気が必要になる。映画をレンタルすることも同様だといえるだろう。最近では、月額500円から2000円ほどで映画やドラマが見放題できるサービスがある（クラウド型配信サービス）。インターネット回線さえあれば、人目を気にせず好きな作品を視聴できる。あとは、個人の端末と個人の部屋があればよいというわけだ。

ヘイトスピーチのさきにあるもの

ヘイトスピーチの問題に話題をもどそう。ヘイトスピーチはヘイトクライムを呼びおこす可能性があるため、余計に悪質であるといえる。ヘイトクライムとは、特定の集団に対する嫌悪を根拠とした暴力行為である。ヘイトクライムによる暴力、殺人、虐殺は、残念ながら過去にたくさんの例がある。そして現在進行形の問題である。

日本社会においては、ヘイトクライムは野宿者襲撃として、くりかえし殺害や殺人未遂事件がおきている。投石、放火、暴行などの暴力がくりかえされてきた。

また世界各国で、性的少数者に対する迫害の問題がある。からかい、暴行にとどまらず、殺人事件もおきている。マイノリティにとって、安全な場所はどこにもないというような状態だといえる。

日本では2016年7月26日に、おぞましいヘイトクライムがおきてしまった。神奈川県にある障害者の入所施設でおきた障害者殺傷事件である。19人もの人が殺害され、職員3人をふくめ27人が重軽傷を負った。

ひとりひとり個性のある個人が、当初は「意思の疎通ができない人」と表現されて報道された。「意思の疎通」とは、コミュニケーションをとることを放棄し、個人の尊厳を無視するからこそ「できない」と判断できてしまうのである。自分自身のコミュニケーション能力を度外視して、他者の「能力」だけを問題視していたのである。

だれにも等しく尊厳がある。あたりまえのことだ。顔のない数字や、記号化されたカテゴリーでもなく、具体的な個人個人と向きあうことがなければ、おなじような事件をくりかえしてしまう。

人は弱い。人をねたむこともあれば、うとましいと思うこともある。しかし、だれかを他者化し、おとしめ、敵意をむけている自分に気がついたとき、たちどまり、ふみとどまること、そして、ふりかえってみることが必要である。

わたしたちは、このかぎりある社会のなかで、わかちあって生きているからだ。それが社会であるからだ。

ヘイトスピーチの被害者は、国外出身者だけなのか

最後に、ヘイトスピーチ解消法の問題点について論じておきたい。ヘイトスピーチ解消法は、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」というものである。法律名として、その対象を「本邦外出身者」に限定していることに注目したい。論点は、おもに2つある。ひとつは、たとえば民族的マイノリティは国内にもいるということである。アイヌ民族に対する誹謗中傷は、いまだになくなっていない。いわゆる「外国人」だけがヘイトスピーチの被害にあっているのではない。性的少数者、障害者、野宿者など、さまざまな人たちがその被害にあっている。もうひとつは、法律の文章のなかで「適法に居住する」という文言があることである。これは、適法に居住しているにもかかわらず「でていけ」といわれるのは不当な差別であるとの趣旨によるものとされている（外国人権法連絡会編2016:22-23）。しかし、この文言が在留資格のない人のことを度外視した表現であることにはかわりない。法律名や法律の文言に、修正の必要があるといえる。2016年には障害者差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、部落差別解消法という3つの法律が施行された。それぞれ、社会の認知度は高いとはいえない。さらなる普及がもとめられる。

参考文献

- 生田武志（いくた・たけし） 2005 『〈野宿者襲撃〉論』人文書院
外国人権法連絡会編 2016 『Q&Aヘイトスピーチ解消法』現代人文社
加藤直樹（かとう・なおき） 2014 『九月、東京の路上で—1923年関東大震災ジェノサイドの残響』ころから
川元祥一（かわもと・よしかず） 2003 「と場の労働と食肉文化」『部落解放』3月号、108-116
黒川みどり（くろかわ・みどり） 2010 『近代部落史—明治から現代まで』平凡社新書
黒川みどり 2016 『創られた「人種」—一部落差別と人種主義（レイシズム）』有志舎
駒井洋（こまい・ひろし） 監修／小林真生（こばやし・まさお） 編 2013 『移民・ディアスポラ研究 3 レイシズムと外国人嫌悪』明石書店
佐藤裕（さとう・ゆたか） 2018 『新版 差別論—偏見理論批判』明石書店（初版は2005年）
スチュアート、ヘンリ 2002 『民族幻想論—あいまいな民族 つくられた人種』解放出版社
田亀源五郎（たがめ・げんごろう） 2016 『弟の夫』3巻（4巻で完結）
竹沢泰子（たけざわ・やすこ） 2005 「総論—人種概念の包括的理解に向けて」竹沢編『人種概念の普遍性を問う』人文書院、9-109
竹沢泰子 2009 「総論 表象から人種の社会的リアリティを考える」竹沢編『人種の表象と社会的リアリティ』岩波書店、1-26
中川洋典（なかがわ・ひろのり） 2016 『焼き肉を食べる前に。絵本作家がお肉の職人たちを訪ねた』解放出版社
中村一成（なかむら・いるそん） 2014 『ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件—〈ヘイトクライム〉に抗して』岩波書店
保坂展人（ほさか・のぶと） 2016 『相模原事件とヘイトクライム』岩波ブックレット
ましこ・ひでのり 2014 『新装版 ことばの政治社会学』三元社（初版は2002年）
師岡康子（もろおか・やすこ） 2013 『ヘイト・スピーチとは何か』岩波新書
湯浅俊彦（ゆあさ・としひこ） 1997 「多文化主義と表現のガイドライン」ゆあさ／たけだ編『多文化社会と表現の自由』明石書店、245-272
湯浅俊彦／竹田春子（たけだ・はるこ） 編 1997 『多文化社会と表現の自由』明石書店
脇浜義明（わきはま・よしあき） 編訳 1995 『アメリカの差別問題—PC（政治的正義）論争をふまえて』明石書店

テストの練習（2）：7月12日提出（メールに添付して提出してもいい）

履歴書について、過去の日本、あるいは外国のものをプリントアウトあるいはコピーし、その履歴書が現在の日本の履歴書と、どのような違いがあるかを説明してください。PDFなどの書式ファイルがない場合、「履歴書についての規定や書式を説明した文書」でもいい。他の人が「なるほど」「興味深い」と感じられる内容でなければダメ。日本語以外の履歴書は、重要な部分は日本語に訳すこと。ほかの学生とかぶらないようにすること。

方法

- ・日本語以外の言語でウェブを検索する。
- ・本や論文、あるいはウェブを検索して、過去の日本の履歴書を見つける。
- ・現在の日本で一般的な履歴書についても把握しておく。そのうえでの対比。

7月26日のテストについて（4～5問を予定。3問か4問は事前公開）

◆期末テストの問題（1）：海外旅行にいく友人におすすめなアプリ（あるいはウェブサイト）を紹介してください。具体的に国を指定して、こういった場面でそのアプリやウェブサイトが活用できるのかについても解説してください。（200字以内、URLは省略。アプリやサイトの名前は、正確に書くこと。「ためになる情報」を書くこと）

◆期末テストの問題（2）：多文化社会に関する新聞記事（自分なりに関心をいだいたもの）を1つえらび、
・『新聞名』『記事名』（年月日）
・その記事のなかで、とくに重要な情報・話題
を書く。（「～によると「○○」とのことである。」というふうに）

◆期末テストの問題を募集します。きょうのコメントで提案してください。

※テストのときは、A4の紙1枚もちこみ可。このテスト問題の目的は、アンテナをきたえること、自分なりに具体的なテーマや問題関心を見つけること、それをことばにすること。研究の第一歩をふみだすためのテストです。

コメントの紹介

…以前テレビで、生まれたときから日本にいて、日本語ペラペラの外国人の方が、「コンビニに行くと必ずはしではなくて、スプーンを入れられる。」とっていて、はし「使えるし！！」とっていました。…中略…小学生のとき、私の町にはブラジルの子が多かったので、給食で、ブラジル料理の日がありました。しかし、日本人の子はみんな口に合わずほとんど食べれないような感じでした。しかし、ブラジルの子はおいしそうに食べており、もしかしたら普段は逆の気持ちをその子たちはしているのかなと思った。

…テレビで見たのですが、“とろみボタン”付きカップ式自動販売機というものです。これは、高齢者をはじめとする嚥下（えんげ）機能が低下した方の嚥下補助を目的に開発されたもので、病院や老人ホームなどを中心に設置され始めています。日本人の死因の第3位は肺炎ですが、肺炎の中でも高齢者などによる誤嚥性肺炎というものが多くあるので、予防のためにとてもよい機能だし、嚥下をうまく行えない方でも好きなものを飲めるという事はモチベーションアップという面からみても、人に優しい機能だなと思います。

【あべのコメント：自宅などでは、飲み物にとろみをつける粉をまぜて飲むようにしていて、外出時にそのような自販機があると助かるということです。ためてみる事ができるという意味でもいいですね。】

私は大学祭実行委員会に所属している。昨年のお客さんのアンケートで「模擬店の商品のアレルギー表示をしてほしい」という意見があったので、今年から表示をすることになった。しかしなぜ今まで表示していなかったのかと思う。

最近ではアメリカだけでなく日本にも赤ちゃん用の液体ミルクが販売されるようになった。知り合いのお母さんが、飛行機などや旅行にいった時だけでなく災害時にも安心して飲むことができるのですごく助かると言っていた。…後略…

…給食については私はイヤな思い出があります。私は小さな時から牛乳が苦手でした。飲むと大抵気持ち悪くなってしまいます。中学3年生の時にやっと飲むことができましたがそれまで飲み切れませんでした。仕方なく残していましたが自分がなさげなかつたです。また定期的に行われる残菜チェックの時は周りの目が辛かったです。

…「給食」香川に住んでいたとき2、3週間に1回プルーンがでてきていた。嫌いだったのできつかったが、小5のときに愛知県に引っ越してきてまったくでなくなった。逆に愛知県では給食で麺がでるとき「ソフトめん」という形ででていたが、香川ではラーメンなどは「ソフトめん」だったがうどんは「うどん」であった。地方によって出てくるものに違いがある。中学ではランチボックスだったが、給食はおかわり可能で保温されているのに対し、おかわりもできなければ冷たかった。

私は高校のとき部活で津軽三味線をやっていました。私が使用していた三味線は犬の皮でできている物で、近くで見ると毛穴まで見えて、本当に犬からできていることを実感しました。三味線というヘビの皮でできていると多くの人が思っていて、私が犬でできていることを言うと決まって「犬がかわいそう」と言われます。どうしてヘビはよくて犬だとかわいそうと思うのか不思議でした。日本の伝統文化として三味線がもっと広まってほしいと思う一方で、三味線が有名になって材料に犬が使われていると知ったらきっと批判の声がでてくるんだろうな、と複雑な思いです。…後略…

【あべのコメント：ヘビの皮をつかうのは沖縄の「さんしん（三線）」です。】

…私はHALAL DELI（ハラルデリ）というハラール対応のお弁当宅配サービスがあるのを耳にしたことがあります。公式サイトを見ると、ここの弁当を製造しているレストランは、お酒の提供を行っているレストランで、ハラール専用のキッチンは完備されていないと明記されており、どういうことかと言うと厳格なイスラム教徒の中にはレストランで作られたものはハラールではないと考える人もいるそうで、ただ食材だけに注意しておけば良いという訳ではなということがよく分かりました。

…辻安全食品というアレルギー対応食品を販売している会社の商品を食べたことがあります。特定27品目を使用しないクッキーなどを食べました。味はいつも食べているクッキーとは違いましたが、おいしかったです。他にはおせんべいやラムネなどたくさんの種類がありました。アレルギー対応食品は、カレーやパンなどしか思い浮かばなかったので、その豊富なラインナップに衝撃を受けました。

ジーマーミ豆腐は沖縄旅行先の居酒屋で食べた。通常の豆腐に比べてツルンとしていてタレも相まってとてもおいしいものだった。しかし、大豆ではなくピーナッツが原材料と知ったのは全て食べた後だった。…中略…味もピーナッツの風味はなく本当においしい豆腐にしか感じなかった…中略…私は魚の一部にアレルギーがあります。ブリとその幼魚が出るとのこと以外はその日の体調や魚の中にいる常在菌などに左右されるためエピペンと薬を常備しています。去年の7月に友達と油そばを食べに行った時の話です。その時私は油そばは初でとても楽しみにしていました。発券機に「魚粉」の追加トッピングの表記があり、入れなければ大丈夫と思って食べました。しかし、アレルギーが出てしまいました…。元々そのお店の油そばには魚粉が入っていたということの後から知りました。エビやカニなどの表示が推奨されているものではなくマイナーなアレルギーなので自分自身で気をつける必要があることを身をもって学びました…。

【あべのコメント：券売機で先払い式のお店ならではの問題ともいえますね。メニューをゆっくり見ながら選ぶ場合だと、メニューに表示、説明がある場合もあるので。】

【給食について】私はアレルギーなかったけれど、アレルギーのある子は、詳しい成分が書いてある、特別なこんだて表をもらっていました。小麦など、主要な成分がアレルギーの子は毎日のお弁当で、もちろん給食費も払っていませんでした。でも、特別な成分がアレルギーで月に数回だけお弁当という子や、ごはんとおかずは食べるけど、他は食べない子などもいました。それに対しての代わりにメニューは何も出てこないし、当たり前のようにみんなと同じだけ給食費をとられていました。もう少し他の対策はないのでしょうか。

…アレルギー体質で苦労するのが、アレルギー体質でない人との認識のちがいです。玉子アレルギーといっても僕は魚卵が食べれないのですが、アレルギーと無縁の人に、生卵を食べるだけで「卵アレルギーなのに食べれるの？」と言われ、それを説明する流れが正直、めんどくさいです。アレルギー表示に魚卵も追加してほしい。あと、「ししゃもに子持ちか子持ちじゃない書いてくれ!!」「寿司屋100%楽しめない!!」といった魚卵アレルギーあるあるの話で同士と盛り上げられるのは楽しいです。…後略…

小学生のころ牛乳が嫌いな子がたくさんいた。しかし無理やり「少しでも」と言われて頑張っていたりした。しかし中学生にあがった時にある先生がアレルギーな子はもちろん、嫌いで飲まない子も頼まなくていい（お金をその分払わなくていい）と言われていて、よかったなと思った。お金も飲料も無駄にしないし、嫌々飲むこともなくなって友達は嬉しそうだった。

…小学校の給食のとき、静岡だったからかもしれませんが、やかんに入ったお茶を毎日くれました。夏は冷たくて、冬は温かかったです。牛乳を飲めない人も飲んでいて、とてもよかったです。

自分のアルバイト先は外国人のお客様に対して専用のマニュアルボードのようなものがあったり、宗教的理由から肉を食べたりすることが出来ない人向けの料理もやっています。アレルギー表記を日本語以外に、英、中、韓、仏、伊の5か国で書かれたボードもあるみたいです。…後略…

…『リバーズ』というドラマを以前みていました。…中略…友人の一人がコーヒーに入れたはちみつになんとそばが入っていたのです。そばの入ったはちみつなどきいたことがありません。でもよくみるときちんと記載されていたのです。もっと目のつく表示の仕方にするべきだと思います。

【あべのコメント：はちみつにはくわしくないですが、要するに、ミツバチが「そばの花」から蜜をあつめたものだそうです。栄養もあるそうで。でも、クセが強いのだそうです。】

…私が通っていた小学校では、アレルギー調査というものが事前に行われて、牛乳が飲めないことを最初に申請したら紙パックに入った緑茶が代わりに提供されていました。…中略…牛乳が嫌いな子（アレルギーではない）はうらやましがっていた記憶があります。…後略…

…私が修学旅行で泊まったホテルはじぜんにアレルギーがないかのアンケートを行っていた。実際私にはアレルギーがあるので、違う料理が出てきてとても助かったことを覚えている。小学校の時の旅行ではホテル側からそのようなことを聞かれた記憶がなかったので、日本でどンドンとそのようなサービスを行うところが増えているのを実感した瞬間だった。…後略…

【あべのコメント：修学旅行の定番の京都府は「食物アレルギーの子 京都おこしやす事業」というのをやっています (<https://www.pref.kyoto.jp/kentai/kyoto-okosiyasu-jigyuu.html>)。】

私の姉は潰瘍性大腸炎という病気を患っていました。大腸を全て摘出したため現在はとても元気だが当時は食事の面で様々なものがドクターストップがかかっていました。動物性脂肪、辛いもの、乳製品、食物繊維が豊富なもの、消化のしにくいものに制限がかかりました。家庭なら母が食べれるものだけを使用し調理していました。しかし外出先だと調理の過程で食べれないものを使用している可能性もあるので苦労していました。…中略…東京の大学を受験する際の宿泊するホテルは近くに彼女の食事可能なレストランがあるかどうかで選んでいて普通に健康な人なら苦労しないところで苦労していたように思います。元気になった現在は食べれるものはずいぶん増えましたがそれでも今後一生食べれないものも残りました。…中略…理解がない人からは「単に嫌いなものが多い面倒な子」と思われたり、言われることも少なくはないと言っていました。

小学校のときの給食は、学校内で作っていたため、温かく、毎日楽しみにしていました。アレルギーの子に対しては、別のものを用意したり、給食のおばさん達が、おかわりをたくさん持ってきてくれて、女子もよくおかわりしていた覚えがあります。中学は給食センターで作られたもので、小学校の時に比べると、あまり美味しくなかったです。特に困ったのが、牛乳です。小学校の時はパック牛乳だったのに、びんの牛乳になってしまい、すごく飲みにくかったです。うどんとかは食缶の中に一緒に煮込んだものだったのに、全部ソフト麺だったのもイヤでした。…後略…

…給食に関して、私は納豆が大嫌いだった。他にも嫌いなものは沢山あったが、これだけは別格だった。当時の私は給食は極力残してはいけないものだと思っていたので（今でも間違っているとは思っていないが）、他の好きなものと同時に口に含んだりして、残さないよう、誇張なく死ぬ気で食べていた。なので給食で納豆が出た日は吐き気との戦いで割と本当に地獄だった。…後略…

【あべのコメント：納豆が給食に？ ちょっとカルチャーショック。岡山のような西日本では納豆は異文化でした。テレビで「健康にいい」とやっていて、家族で食べてみようということになり、わりと食べるようになりました。小学6年のころです。給食で納豆は、いやがる人がたくさんいるでしょうにね。】

私の小学校は俗に言われる“給食”というものはなく、小さなお弁当みたいなものが毎日配られていました。そのお弁当に＋ご飯・おみそ汁でした。そのお弁当は冷たい上に本当にまずくて…その上「残してはいけない」というルールのせいで吐きそうになりながら皆も先生も…食べてました…好き嫌いをなくすためのルールかもしれませんが、そのせいで逆に嫌いなものが増えました。

幼稚園のころ、週一で給食がありました。その日、私はどうしても食べることができず、残そうとしましたが残すなどと言われてしまい、他の子が運動会の練習をする中、一人で寂しく食べていたときの記憶が残っています。そのころ少食だった私にはとてもつらかったです。私の母も同じような経験をしたそうです。

…給食については、自分のお皿に入っている分の給食は必ず食べなさいと言う先生がいた。私は食べられる量も少なく、食べるのが遅かったため周りが掃除をしている中で食べなくてはいけなかったのがイヤだった。しかし、給食のメニューで友好都市のものが出たり、地元で作った野菜を食べられたりして楽しかったし、学びもできた。

【あべのコメント：学校の掃除をこどもにさせるのも、日本の学校文化ですね。】

…給食について、わたしの小学三年生のころの担任の先生は「残したら罰としてそうじなど」という考えの持ち主でした。…中略…もし食べられなかったら放課後掃除をして目立ってしまって恥ずかしかったのもそれは嫌だった思い出があります。

…中学では給食が選択制だった。毎月末に次の一ヶ月の給食リストが掲示され、Aコース、Bコース、牛乳のみ、なしを選ぶことができた。私は牛乳が好きなので、牛乳は注文して、弁当を持参していた。また、アレルギー持ちの人のために、給食を注文するときに、アレルギーを記入すれば、そのアレルギー性食品を除いたその人専用の給食が用意されたため、生徒に配慮した給食制度になっていてよかったと思う。また、保護者の負担も減らせていたと思う。

私の中学校は給食ではなく“ランチ”でした。教室ではランチボックス（弁当みたいな感じ）、1か月に1週間だけランチルームに行って丼とかラーメンとか出きたてを食べれるシステムです。ランチルームでもボックスでも2種類のうちから選択ができるので、いつもワクワクして選んでいました。…後略…

…小学校低学年の頃、食べるのが遅くてクラスメートが給食を食べ終わっていくなか私は昼休みの時間まで食べていました。そこで担任の先生が、特別にみんなよりも早く食べ始めてよいことにしてくれて、食べ終わるのは遅くても以前よりは早く食べ終わることができるようになりました。今でも鮮明に覚えているくらい嬉しかったことです。食べるスピードは人によってもちろん違うので、そういうところの配慮は重要なことだと思います。

…給食で「かしわのひきずり」が出て、愛知県の郷土料理であるこの料理が給食に出たことは良かったなと思います。たぶん給食で食べなかったら「かしわのひきずり」が愛知県ならではだということを知らないままだった…後略…

…保育園のころへボ（はちの子）がよく出ていたがとても苦手で食べるのが大変だった。郷土料理かもしれないがかんべんしてほしかった。

…私は地元がそばで有名だったりしてそばの実を知っていたが、知らない人からしたら見当もつかないだろうなと感じた。家庭のお祝いや親戚の集まりのときによく馬刺しを食べるので普通のことだと思っていたが、これも地域差だと初めて知った。…後略…

…春日井市はサボテンを売り出しているのサボテンを使った食材がよく出ました（サボテンラーメンなど）。地元の食材を使うという意味で給食は非常に良いツールだと思います。

アレルギーとかではないが、苦手な食べ物が給食に出て食べ終わるまで帰らせてもらえず、放課後まで残っているのはかわいそうだった。弟は生まれたときからピーナッツ、卵、牛乳のアレルギー持ちで、ピーナッツに至っては食べると死ぬと言われて本当に驚いた。弟がアレルギーになって初めて気づいたが、ランチパックのピーナッツの表面にはピーナッツの焼印が入っててそのためかと。

…『約束のネバーランド』というマンガが主人公は人間だけど食べられる側の立場で、「食」についてとても考えさせられました。

…YouTubeの動画などでもマグロの解体ショーにはすごいや職人の腕をほめるコメントが多く、マグロに同情するコメントは少ないのに、これが牛やブタになったとたんに家畜に同情するコメントが多くなります。なかには職人側のことを

中傷するようなコメントもあります。これも日本で屠場労働者に対して差別が残っていることのあらわれなのではないかと思いました。

…ディズニー・シーによく行くのだが、いくつかのレストランには「ベジタリアンの方でもお召し上がりいただけます」という表示がある。たしか日本語以外の表示もあったように思う。いろんな国からたくさんの人が訪れるディズニーではこのような表示が必須だと思う。ディズニーでは低アレルギーメニューを用意しているお店も多くあるし、食べ物に制限がある人はレストランにお弁当をもちこんでレンジであたためてもらえることもできるときいたことがある。

先日、アルバイト先で注文をとったら、サラダのドレッシングは何を使っているのかを聞かれました。その方はアレルギーがあり、成分表を見せてほしいと言われたが、少し時間がかかってしまった。…後略…

Veganについて、他の授業でveganを取り上げた回のBBC Newsを見た。イギリスではVeganuaryという造語があり、これは「Vegan」と「January」という言葉をかけ合わせたものである。1月から1カ月だけ、お試しでVeganになることを呼びかけているのだ。Veganになることが果たして健康的なのかどうかは、よく分からないが、イギリスでは流行しており、1つのレストランにつき、最低1つのVeganなメニューが用意されているという。…後略…

【あべのコメント：健康志向もあるでしょうが、環境問題的に地球にやさしい、持続可能性という意味で菜食をする人も多いです。あとは、動物の権利という視点。「肉食は種差別だ」という視点に立つので肉食を強く批判している。】

僕の両親はベジタリアンで、家では肉、魚など出てこないですが、十分料理のバリエーションもあるし、味もおいしいのです。しかし、お肉が自分は大好きなので、変えられない部分もあるので少しは食べたいです。

私の通っていた高校は曹洞宗（そうとうしゅう）の学校で、高校1年生で全員、永平寺へ1日修行へ行きます。そこでは、精進料理をいただきます。普段、私が食べているものとかかなり違うことを知り驚いた記憶があります。精進料理は味もうすく、野菜は皮や葉などを捨てる所は一切なく、全て使ってつくられています。しかし、お肉を食べないためタンパク質を取ることが難しくなってしまいます。そのために、永平寺では黒ごま豆腐がとてもよく食べられていて、名物となっています。…後略…

韓国の小説、『菜食主義者』という本がある。はじめの文章は、「妻が菜食を始める前まで私は彼女が特別な人だと思ったことがなかった。」だ。単に肉を食べずに料理しないことのみにしただけだが、この行為は彼らの家庭をゆるがし壊す結果を生む。夫は菜食のお膳立てをだした妻に完全に狂ったと怒って、主人公の父は家族再会の時、最後まで肉を食べることを拒否する主人公を暴行し、強制的に口を開けさせる描写が出る。歴史的には肉は男性的権威と密接な関係にあった。女性の役割はそれを料理し、男子に捧げるものだった。昔から肉は野菜に比べて遥かに栄養のあるものとされてきており、家父長社会で肉はお父さんと長男の順で先に与えられた…

【あべのコメント：『菜食主義者』という小説は日本語訳もでていますね。】

私の祖母はベジタリアンです。肉、魚はもちろんの事、にんにくや玉ねぎ、食品添加物でいうとゼラチンなどを食べません。名称で言うとラクトオボ・ベジタリアンにあたると思います。祖母の家では菜食しか出てきません。また、祖母との外食はベジタリアンのための店がとても少ないためなかなか行けません。今回出てきたように台湾は菜食のお店が多く、祖母は台湾やインドへ観光によく行っていることを思い出しました。私のおじさんは祖母でも食べられるような精進料理屋さんを愛知県豊明市で経営しています。そこはそば屋さんなのですが、そばつゆもかつお節を使わず昆布だしで取っていたり、大豆ミートという見た目や風味が肉のような食材を使ってからあげを作ったり、おからで作ったうなぎの蒲焼きもどきや湯葉を使った串カツのようなものを出しています。そこのお店では精進料理だけではなく、ベジタリアンではない人のためのメニューもあります。…後略…

【あべのコメント：名古屋や京都で「ビーガングルメ祭り」というのが毎年あります。サッカーは「手をつかわない」という制限（ルール）があることでサッカーならではの魅力がうまれているように、自分なりの範囲をきめて、その範囲でやりくりする、工夫することが菜食生活のおもしろさであると思います。ところで、ゼラチンの原材料はなんですか？あまり知られていない。】
